

平成14年2月14日
原子力安全対策課
(13-86)
<11時記者発表>

新型転換炉ふげん発電所C-濃縮廃液貯蔵タンク下部からのわずかな漏えい

このことについて、核燃料サイクル開発機構から下記のとおり連絡を受けた。

記

新型転換炉ふげん発電所（新型転換炉；定格出力16.5万kW）は、1月7日より第17回定期検査を行っているが、2月13日16時頃、放射線管理区域内の特別立入区域^{*1}パトロール（2回/月）において、原子炉補助建屋廃棄物処理室地下1階にあるC-濃縮廃液^{*2}貯蔵タンクの下部に取り付けられている加温用蒸気出口配管部に固形状の堆積物を発見した。

固形物について放射能濃度と元素分析を行った結果、元素分析では、濃縮廃液貯蔵タンクに貯蔵されている内容物（主な成分は硫酸ナトリウム）が確認されたため、タンク内容物が漏えいし固化したものと推定された。なお、放射能濃度はタンク内の濃度よりは非常に低い値（4.7Bq/g程度）であった。

今後、タンク下部を覆っている保温材をはがし詳細調査を行うこととしている。なお、この事象による周辺環境への放射能の影響はない。

*1：通常の管理区域より線量当量率の高い区域であり、施錠管理により立入を制限している。

*2：放射性の廃液を蒸発濃縮処理し、それにより発生した濃縮廃液を貯蔵するタンク（3基：30m³）